

2年 国語科学習指導略案

岸和田市立城東小学校

指導者 宇野 悠樹

令和 8 年 9 月 30 日

第5時限 13:40～14:25

第2学年 1 組 教室

1. 単元名 ニャーゴ～「ニャーゴ」なりきり大作戦～(使用図書は、東京書籍 国語上p118～p130)

2. 単元のねらい

本単元では場面ごとに登場人物の様子や行動を具体的に想像し、想像したことを音読で表現したり、発表しあったりする学習を行う。本学級には、音読がたどり読みだったり、声には出せていても、内容の理解が苦手だったりする児童がいる。人物がしたことや言ったことに着目して、その理由を考えたり、声に出して読んでみたりすることで、物語の内容への理解を深めることができる。また、音読を聞き合う、もしくは動画を見る場面を通して、登場人物のどのような様子をどう表現したかを考えることもできる。音読を通して、想像して読む力や読んで考えたことを表現する力をつけられるように指導していきたい。

3. 単元の指導計画(全12時間)

時	学習活動
1,2	学習の見通しをもとう
3	お話をいくつかの場面にわけよう
4	第一～二場面で起こった出来事確かめながら読むことができる。読み取りマップを作ろう。
5	第三～四場面起こった出来事確かめながら読むことができる。読み取りマップを作ろう。
6	第五場面で起こった出来事確かめながら読むことができる。読み取りマップを作ろう。
7	第一～二場面での人物の行動や会話の理由について考え、人物の様子を想像することができる。
8	お互いの音読を評価する。
9 本時	第三～五場面での人物の行動や会話の理由について考え、人物の様子を想像することができる。
10	お互いの音読を評価する。
11 12	音読発表会をして、学習したことを振り返ろう。

4. 本時について

(1) 目標

ねこの気持ちが、かわっていくようすを読み取って、音読で表そう。

(2) 判断基準

S(十分に満足できる)	A(満足できる)	B(努力を要する)
人物の様子について想像したことを音読や動作で表すことができる。なりきりポイントにそって音読できている。	人物の様子について想像したことを音読や動作で表すことができる。	音読することができる。 →読むことが難しい児童も、教科書への書き込みや、読み取りマップなどの書き込みを通して音読の工夫を考える。

(3) 本時の情報活用能力のねらいについて

- ・共有ノート(ロイロ)の読み取りマップに大切なこと、気づいたことを書き出していく。
- ・音読を録画して、自分の音読を振り返る。

(4) 学習の手引き

【学習かだい】

ねこの気持ちが、かわっていくようすを読み取って、音読で表そう。

S:ねこの気持ちが、かわっていくようすを読み取って、音読で表すことができる。

なりきりポイントにそって読み取りマップにくふうを書けている。

A:ねこの気持ちが、かわっていくようすを読み取って、音読で表すことができる。

【かだいをきめる】

- ・ねこになりきり音読をくふうしよう。

【じょうほうをあつめる】

① 教科書を読む②読み取りマップを見る③なりきりタイム(ペープサート、なりきりセット)

【せいり・まとめる】

よみとりマップにねこや子ネズミの音読のくふうを広げる。(クルクルアイ、ズームする)

【わかりやすくつたえる】

なりきりポイントを意識して音読する。ロイロノートに音読を録音する。

(5) 学習過程

時	学習活動	主な発問(○)と 予想される児童の反応(●)
5分	○なりきりポイントをたしかめる。	○一緒に読み取ってきた中で、行動、会話、から音読の工夫を整理する。なりきりポイント(声の大きさ、スピード、顔、しょうこ)を確認する。
5分	○一人で音読をする。	●起立して三、四、五場面のいずれかを読めたら座る。 →早く読み終わった児童は座って他の場面を音読する。
	○ねこの気持ち、かわっていくようすを読み取って、音読で表そう。	
30分	○なりきりセットを選んで三～五場面をよんでねこの気持ちを考える。	●お面、桃、ペープサート、教科書を使って音読を深める。 ※読みを本文に返せるように声かけをする。 ※読みの工夫→どうしてそう読もうと思ったの？ ●「小さな声で」、「だいじそうに」、読み方の工夫を本文や理由とセットにしながら繰り返し音読の練習をする。 ●三～五場面のうち、特に伝えたい場面を録画する。
5分	○ふりかえる	○今日の1時間を言葉で振り返る。 →どんなふうに読んだ？ →使った思考スキルをふりかえる。 (多面的、変化、広げる、焦点化)